



私の3冊

松井健太

後輩に薦める 2 冊

阿部順子，蒲澤秀洋（監修）名古屋市総合リハビリテーションセンター（編著）
50 シーンイラストでわかる 高次脳機能障害「解体新書」
—こんなときどうしよう!? 家庭で，職場で，学校での“困った”を解決！
メディカ出版，2011

地域・就労・学校生活のどんな場面で，どんな高次脳機能障害が，どう現れるか，イラスト付きのエピソードとともに対応例も記載されているので，高次脳機能障害を実際の生活場面に即して話すときに参考にしていました。機能のみで説明するより具体性が高く，当事者もご家族も地域支援者も，実際の生活場面と結び付けて考えやすいようでした。そのまま使うも応用するも勉強になる 1 冊です。

奥野英子，野中 猛（編著）
地域生活を支援する社会生活力プログラム・マニュアル
—精神障害のある人のために 中央法規出版，2009

精神障害に限らず，ハンディキャップを抱えた方が住み慣れた地域で主体的に生活していくための必要項目として 5 部門 25 のモジュール（生活リズム，外出・余暇，障害理解，福祉制度など）が紹介されています。退院後の社会生活の構成要素を眺められるので，今行っている訓練やかかわりが，患者の望む社会生活の何に役立つのか，リハビリテーションの着地点を確認できる参考書としてお薦めです。

自分の 1 冊

立神粧子（著） Yehuda Ben-Yishay，大橋正洋（監修）
前頭葉機能不全 その先の戦略 Rusk 通院プログラムと神経心理ピラミッド 医学書院，2010

紹介されている「神経心理ピラミッド」は，前頭葉機能を中心とした認知機能を階層的かつ相補的に捉えているので，発症直後から社会参加（就労・就学等）に至るまで，場面や段階を選ばず，高次脳機能障害支援の介入ポイントの整理，支援の順序立てに役立っています。また，神経心理ピラミッドは図式化されているので，当事者，ご家族のみならず，地域のさまざまな職種とも共有しやすく重宝しています。

■ まつい・けんた 臨床心理士 11 年目 川崎市北部リハビリテーションセンター 百合丘障害者センター 在宅支援室

回復期リハビリテーション病院勤務後，現在の地域リハビリセンターで，維持期の高次脳機能障害者を主に地域生活の再構築に向けて，当事者・ご家族・地域支援者への後方支援を，認知・精神の両面から実施しています。医療から地域へ移行するほど，社会参加や社会生活への適応が重視され，さらに，高次脳機能を含む精神機能が社会生活とどう関連するか，“翻訳する（伝える）”技術に悩む中，出会った本の一部が上記の 3 冊です。